

# (公財)北海道サッカー協会 2025プロジェクト

2016年4月策定

2013年4月1日より公益財団法人に移行

## I HKFAの理念及びビジョンの具現に向けて

(公財)北海道サッカー協会会長 出口 明

### HKFAの理念

サッカーを通じ、道民の心身の健全な発達と北海道スポーツの振興に貢献し、豊かなスポーツ文化を醸成する。

公益財団法人北海道サッカー協会は、サッカーを通して、本道開拓期のフロンティアスピリット(開拓者魂)を我が愛する郷土北海道全体に浸透させ、道民が元気に大きな夢を持って毎日を生活できるよう、また生涯にわたって地域の中で充実したスポーツライフを楽しむことができる環境が整うことを願っております。

### HKFAのビジョン

1. 北海道のサッカーの普及に努め、老若男女がサッカーを楽しみ、ファミリー全体が幸せになれる環境を創り上げるため、サッカーファミリーの拡大を図る。
2. 道民チームJリーグ「コンサドーレ札幌」を頂点として、各北海道代表チーム・選手が常に日本のトップレベルで活躍できるよう、サッカーの強化に努め、道民に希望と勇気と感動を与える。
3. サッカーを通してフェアプレーの精神を身に付け、全道に相互扶助の豊かな気持ちが広がるよう貢献する。

公益財団法人北海道サッカー協会は、組織を充実し、サッカーファミリーを拡大し、幼児からシニアにいたるまでの心身の発達状況等に応じたルールを工夫などして、誰もが、どこでも、手軽にサッカーを楽しむことができる環境を整えます。また、幼児期からの発達特性に留意したプログラムを策定するなどして、それに引き続くトレセンを充実し、サッカーの技を磨くとともに、逞しい体とスポーツマンシップに基づく自己を愛するよう他人をも大事にする思いやりの心を育てます。さらに、過疎化や高齢化が進んでも、その地に明るさをもたらすような、相互扶助の気持ちが北海道全体に広がるよう、私たち公益財団法人北海道サッカー協会は2025プロジェクトを推進してまいります。

## II HKFA2025プロジェクトの推進

### 1 HKFA2015プロジェクトから2025プロジェクトへ

公益財団法人北海道サッカー協会は、JFA2005宣言を受け、北海道としてのサッカー界の在り方や進むべき方向などを明確にするため、「HKFAの理念」「HKFAのビジョン」「HKFAの約束 2015」「HKFAの約束 2050」を、2005年4月に制定(2006年4月一部改正)しました。

HKFA2015プロジェクト事業本部は、この「HKFAの理念」、「HKFAのビジョン」に基づき、道民の皆様方にお約束した「HKFAの約束2015」を具現するため創設しました。その10年間を経て「HKFA2015プロジェ

クト」の総括(「本誌2015PJの取組みを振り返って」を参照)としてまとめました。2015プロジェクトとしての全体総括や部門別の成果と課題を踏まえて、さらに、以下にあげる8内容のミッションについて進化を図るため、2025プロジェクト事業本部を立ち上げその実現に向けて推進してまいります。

## 2 HKFA2025プロジェクトの業務等

HKFA2025プロジェクトは、「HKFAの約束2015」のさらなる進化を目的に、各セクション担当者の目標管理の下、アウトカム指標などを明確にしながら推進致します。

### (1)HKFA2025プロジェクトの業務内容

HKFA2025プロジェクトには、「HKFAの約束2015」の具現を図るため、次の内容がミッションとして与えられています。

- ①「サッカーファミリー35万人」に係るミッション
- ②道民チーム「北海道コンサドーレ札幌」に係るミッション
- ③道民チーム「エスポラーダ北海道」に係るミッション
- ④「日本代表・U-23代表選手の輩出」に係るミッション
- ⑤「北海道代表チームの全国上位進出」に係るミッション
- ⑥「なでしこリーグチームの加盟育成」に係るミッション
- ⑦「JFLチームの加盟育成」に係るミッション
- ⑧「スポーツ医学」に係るミッション

### (2)HKFA2025プロジェクトの目標管理

HKFA2025プロジェクトは、道民の皆様方への約束を履行するための組織です。したがって、その推進は、確実にかつ明確に、停滞無く推進することが求められます。

このことから、2016年度から本格実施するため、2025年度までの10年間を短期目標年度、中期目標年度、長期目標年度の3期に分け、プロジェクトを推進することにしました。この3期の推進状況が明確になるよう、定量的目標<sup>\*1</sup>か定性的目標<sup>\*2</sup>のどちらかにより、目標を設定するなどしてプロジェクトの進行度合いが、より一層、明確化するよう、各担当者の目標管理は確実にを行うよう配慮します。

なお、2016年度から2025年度までの3期の区分は、次のようにします。

<b>短期目標年度：</b>	2016年度～2018年度【目標の1/4～1/2以上の遂行】
<b>中期目標年度：</b>	2019年度～2022年度【目標の1/2～2/3以上の遂行】
<b>長期目標年度：</b>	2023年度～2025年度【全ての2025プロジェクトが完成】

## 3 HKFA2025プロジェクトの構成等

本プロジェクトの実現に向けての役割を担うメンバーとして、

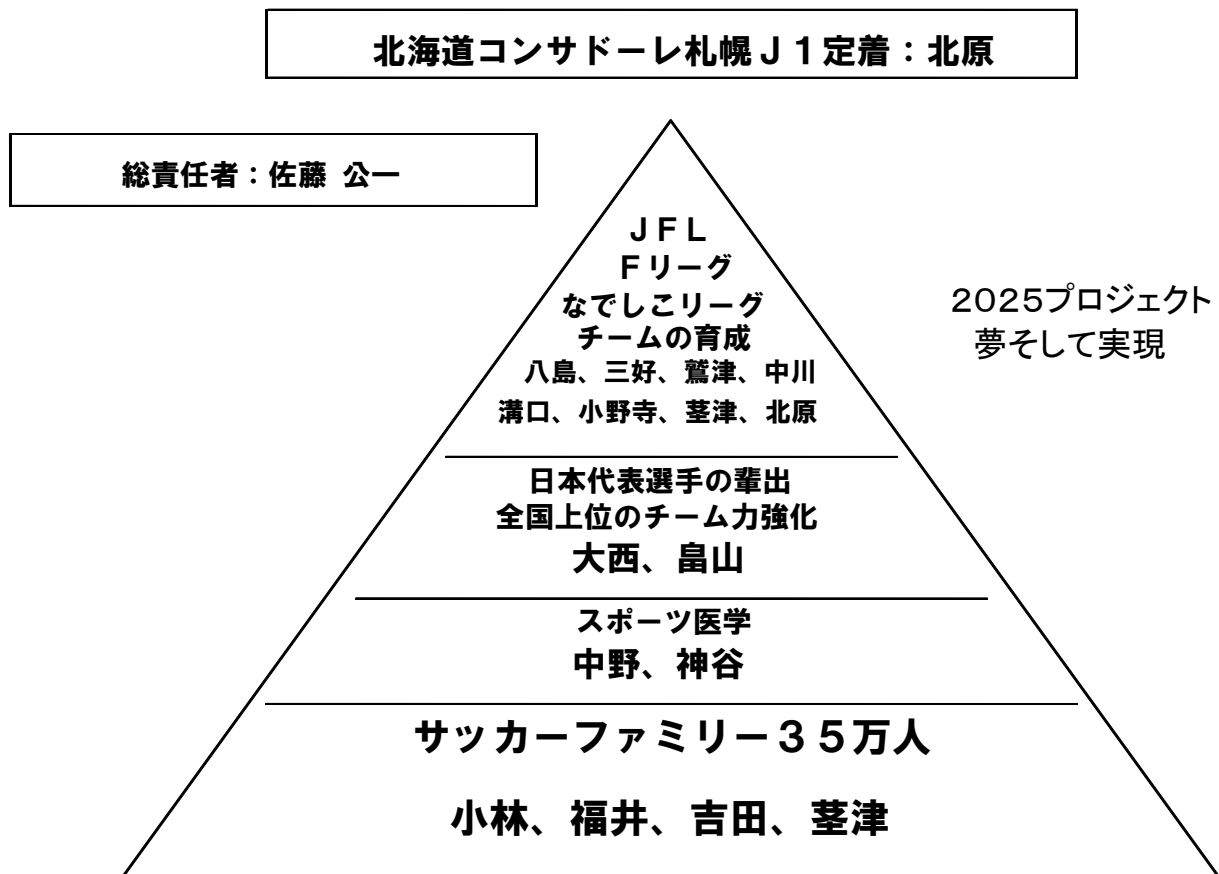
○ 総括責任者	佐藤公一
○ サッカーファミリー35万人部門	小林徹也、福井浩史、吉田雅昭、荃津都
○ 北海道コンサドーレ札幌部門	北原次郎
○ エスポラーダ北海道部門	溝口 昇、小野寺隆彦
○ 日本代表選手輩出部門	大西真司
○ 全国上位成績部門	畠山正樹
○ なでしこリーグ加盟育成部門	鷲津裕美、中川綾子

- JFL加盟育成部門
- スポーツ医科学部門

八島隆志、三好健寿  
中野和彦、神谷智昭

(2016年4月1日現在)

このHKFA2025プロジェクトの内容構成は、次のように階層的構造として、整理し、相互の関連化を図りながら全体的調整を行う中で、プロジェクトを推進します。



#### 4 HKFA2025プロジェクト推進に係る留意事項

HKFA2025プロジェクトは、その推進に当たり、本道サッカーを取り巻く環境の変化も想定し、その変化等に柔軟且つ円滑に、各担当者及び担当間に対応できるようにするため、次の3点に留意して進めます。

(1) 原則1： 歩きながら、振り返り、問いかけつつ、着実に推進すること

「確固たる推進内容・方法を確立して」から進むことは、いたずらに時間を費やすことにもなりかねないことから、PDCAサイクルを短期的に積み重ね、「評価ABC<sup>※3</sup>」を繰り返し、「歩きながら、振り返り、問いかけつつ、着実に推進する」マネジメント方式を採用します。

(2) 原則2： 各協会及び各チーム等から好意を持って迎えらるること

「北海道コンサドーレ札幌」やLリーグ・JFLリーグ・Fリーグチームという特定チーム等に係る支援などを対象にしていることから、その具体的な在り方については、全道的視野の下、各地区サッカー協会及び各チーム等から好意的に理解・支援される内容・方向でプロジェクトを推進します。

(3) 原則3： 各協会及び各連盟理事長が本プロジェクト事業本部推進委員になること

本プロジェクトを全道的に、かつ確実に推進実行するため、各地区サッカー協会理事長及び各サッカー連盟理事長を推進委員に任命。このことにより、2025プロジェクトの全道的推進に係る進捗が平準化されるとともに、各地区サッカー協会等からの支援・援助が確実になされるようになります。

#### 用語説明

※1定量的目標：到達の達成度を客観的に判定するために、定量化（数値化）して設定する。

※2定性的目標：目標の達成度を客観的に判定するために、達成レベルが分かるような状態や条件を明らかにする。

※3評価ABC：AはAccountability 結果の説明責任、BはBalance全体的なバランス  
CはCommunication改善方策への議論